

Ⅱ 業務の内容・実績

身体障害者更生相談所業務

1 専門相談・判定業務

身体障害者福祉法第 11 条に基づく「身体障害者更生相談所」として、補装具や更生医療の給付に係る判定などを実施しているほか、支援体制が未だ不十分であったり、既存の制度やサービスでは対応が困難な障害のある方の専門的な相談・支援を行っている。

(1) 専門相談

相談内訳

(単位：件)

	訪 問	来 所	電話・メール	その他	計
福祉サービスの利用等	54	30	552	0	636
障害や病状の理解	16	13	82	0	111
健康・医療	8	1	36	0	45
不安の解消・情緒安定	12	6	35	0	53
保育・教育	0	0	0	0	0
家族関係・人間関係	0	0	1	0	1
家計・経済	1	0	1	0	2
生活技術	43	22	6	0	71
就 労	15	6	40	2	63
社会参加・余暇活動	0	4	3	0	7
そ の 他	48	2	55	2	107
計	197	84	811	4	1,096

II 業務の内容・実績

(2) 判定業務

① 障害別

(単位：件)

	補装具	更生医療	その他	計	来 所	訪 問	文 書	計
視 覚 障 害	0	0	0	0	0	0	0	0
聴覚・音声言語 そしゃく機能障害	300	9	0	309	157	3	149	309
肢 体 不 自 由	649	116	9	774	531	109	134	774
内 部 障 害	0	513	0	513	0	0	513	513
難病（手帳なし）	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	949	638	9	1,596	688	112	796	1,596

② 補装具

肢体不自由

(単位：件)

車 椅 子	普通型	100	電 動 車 椅 子	普通型 4.5km/h	0
	リクライニング式普通型	0		普通型 6.0km/h	5
	ティルト式普通型	4		簡易型	20
	リクライニング・ティルト式普通型	3		リクライニング式普通型	0
	手動リフト式普通型	0		電動リクライニング式普通型	1
	前方大車輪型	0		電動リフト式普通型	0
	リクライニング式前方大車輪型	0		電動ティルト式普通型	5
	片手駆動型	2		電動リクライニング・ティルト式普通型	3
	リクライニング式片手駆動型	0		その他	1
	レバー駆動型	0		義 肢	義 手
	手押し型	21	義 足		43
	リクライニング式手押し型	3	装 具	下 肢	294
	ティルト式手押し型	7		靴 型	66
	リクライニング・ティルト式手押し型	40		体 幹	1
その他	0	上 肢		12	
歩 行 器	8	座 位 保 持 装 置	車椅子付	10	
歩行補助つえ	5		電動車椅子付	2	
重度障害者用意思伝達装置	14		その他	19	
				計	698

※複数支給の場合あり

聴覚障害（補聴器）（単位：件）

高 度	ポケット型	4
	耳掛け型	133
重 度	ポケット型	6
	耳掛け型	148
耳あな型		35
デジタルワイヤレスシステム		1
計		327

※両耳に支給の場合は、2件として計上している。

視覚障害（単位：件）

眼 鏡	矯正	0
	遮光	0
	コンタクトレンズ	0
	弱視	0
盲人用安全つえ		0
義眼		0
計		0

※特例補装具にあたらな
いは判定不要。

③ 更生医療

（単位：件）

	新規	内容変更	期間延長	却下	計
視覚障害	0	0	0	0	0
聴覚・音声言語 そしゃく機能障害	2	2	4	1	9
肢体不自由	116	0	0	0	116
じん臓機能障害	158	114	221	0	493
心臓機能障害	2	0	0	0	2
小腸機能障害	1	0	0	0	1
免疫機能障害	14	0	0	0	14
肝臓機能障害	0	3	0	0	3
計	293	119	225	1	638

II 業務の内容・実績

2 補装具費支給制度、日常生活用具給付制度の管理

「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成 17 年法律第 123 号）」（以下「障害者総合支援法」と言う。）第 76 条に基づく補装具費の支給制度、及び仙台市障害児者日常生活用具給付事業実施要綱（平成 18 年 10 月 1 日健康福祉局長決裁）に基づく日常生活用具給付制度を所管している。

各区・宮城総合支所障害高齢課における支給・給付決定等の事務の円滑化のため、事務処理マニュアルや Q&A の整備を進めているほか、支給・給付実績を分析し、制度の改善に役立っている。

(1) 補装具費支給制度

補装具費支給実績

(単位：件・円)

		支 給		修 理		計	
		件数	公費支出額	件数	公費支出額	件数	公費支出額
障害者 (18歳以上)	青葉区	234	29,769,992	215	11,771,981	449	41,541,973
	宮城野区	184	23,811,330	202	11,381,293	386	35,192,623
	若林区	145	21,017,291	130	8,184,839	275	29,202,130
	太白区	284	52,952,719	244	13,656,824	528	66,609,543
	泉区	219	28,597,634	183	9,130,709	402	37,728,343
	宮城総合支所	81	10,169,561	82	4,981,925	163	15,151,486
	計	1,147	166,318,527	1,056	59,107,571	2,203	225,426,098
障害児 (18歳未満)	青葉区	60	11,086,001	33	2,939,851	93	14,025,852
	宮城野区	73	15,859,341	16	1,012,683	89	16,872,024
	若林区	44	11,215,943	22	981,816	66	12,197,759
	太白区	93	25,431,539	46	2,634,747	139	28,066,286
	泉区	86	19,101,141	41	3,163,164	127	22,264,305
	宮城総合支所	47	12,747,698	23	1,041,638	70	13,789,336
	計	403	95,441,663	181	11,773,899	584	107,215,562
合 計	青葉区	294	40,855,993	248	14,711,832	542	55,567,825
	宮城野区	257	39,670,671	218	12,393,976	475	52,064,647
	若林区	189	32,233,234	152	9,166,655	341	41,399,889
	太白区	377	78,384,258	290	16,291,571	667	94,675,829
	泉区	305	47,698,775	224	12,293,873	529	59,992,648
	宮城総合支所	128	22,917,259	105	6,023,563	233	28,940,822
	合計	1,550	261,760,190	1,237	70,881,470	2,787	332,641,660

(2) 日常生活用具給付制度

日常生活用具給付実績

(単位：件・円)

	障害者		障害児		計	
	件数	公費支出額	件数	公費支出額	件数	公費支出額
青葉区	4,015	44,017,272	262	3,158,993	4,277	47,176,265
宮城野区	3,374	35,466,239	376	4,387,759	3,750	39,853,998
若林区	2,717	28,605,906	236	2,435,226	2,953	31,041,132
太白区	5,148	56,114,489	599	6,267,349	5,747	62,381,838
泉区	4,658	48,819,685	476	5,360,898	5,134	54,180,583
宮城総合支所	1,385	13,696,094	438	5,092,688	1,823	18,788,782
計	21,297	226,719,685	2,387	26,702,913	23,684	253,422,598

3 身体障害者手帳の障害等級の程度に関する審査・認定業務

福祉事務所を經由して行われた身体障害者手帳の申請について、身体障害者福祉法に定める障害を有する状態への該当・非該当、障害等級の程度、再認定の要否等について審査・認定を行っている。

また、高度な医学的判定が必要な申請についての審査を行う仙台市社会福祉審議会障害者福祉専門分科会身体障害者福祉審査部会を運営している。

(1) 手帳事務処理件数

(単位：件)

年度	交付			計	却下	医師への照会	部会審査
	新規	障害変更	紛失破損				
29	2,167	877	335	3,379	20	490	387
30	2,243	797	341	3,381	17	412	435
31	2,399	825	309	3,533	25	415	354

※ 新規交付には他県・市交付者の紛失破損・等級変更による申請を含む

Ⅱ 業務の内容・実績

(2) 令和元年度新規交付者数

① 障害別・等級別内訳（全市版）

【ア 総数】

（単位：人）

項目	計	1級	2級	3級	4級	5級	6級
視覚	124	16	45	2	22	33	6
聴覚	128	0	1	5	57	0	65
平衡	0	0	0	0		0	
音声・言語・そしゃく	41	1	0	29	11		
肢体不自由	745	249	171	67	95	127	36
心臓	441	406	0	18	17		
じん臓	277	170	0	101	6		
呼吸器	173	23	1	133	16		
ぼうこう・直腸	328	0	0	4	324		
小腸	1	0	0	0	1		
免疫	12	0	4	0	8		
肝臓	13	5	5	1	2		
計	2,283	870	227	360	559	160	107

※ 他県・市交付者の紛失破損・等級変更による申請は除く（以下：イ）②まで同様）

注1) 重複する障害がある場合は、より重度の障害に計上している。

例：視覚障害4級及び肢体不自由3級（総合等級2級）の場合は、「肢体不自由2級」に計上

注2) 重複する障害があり、その程度が同じ等級の場合は、表中の上位の障害に計上している。

例：聴覚障害4級及び心臓機能障害4級（総合等級3級）の場合は、「聴覚障害3級」に計上

【イ 18歳未満再掲】

（単位：人）

項目	計	1級	2級	3級	4級	5級	6級
視覚	6	3	0	0	3	0	0
聴覚	2	0	0	0	0	0	2
平衡	0	0	0	0	0	0	
音声・言語・そしゃく	0	0	0	0	0		
肢体不自由	19	10	6	2	1	0	0
心臓	3	3	0	0	0		
じん臓	1	0	0	1	0		
呼吸器	6	4	0	0	2		
ぼうこう・直腸	6	0	0	1	5		
小腸	0	0	0	0	0		
免疫	0	0	0	0	0		
肝臓	2	2	0	0	0		
計	45	22	6	4	11	0	2

② 障害別・等級別内訳（区別）

【ア 総 数】

（単位：人）

項 目		総計	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級
総 計	総 計	2,283	870	227	360	559	160	107
	視 覚	124	16	45	2	22	33	6
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	169	1	1	34	68	0	65
	肢体不自由	745	249	171	67	95	127	36
	内部障害	1,245	604	10	257	374		
小 計		433	162	51	75	96	26	23
青 葉 区	視 覚	23	1	10	1	5	6	0
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	35	0	0	8	14	0	13
	肢体不自由	145	46	37	18	14	20	10
	内部障害	230	115	4	48	63		
小 計		142	64	7	21	36	12	2
宮 城 総 合 支 所	視 覚	4	1	0	0	0	3	0
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	11	0	0	2	8	0	1
	肢体不自由	43	20	7	3	3	9	1
	内部障害	84	43	0	16	25		
小 計		370	132	31	53	113	19	22
宮 城 野 区	視 覚	21	1	8	0	5	3	4
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	30	0	0	5	13	0	12
	肢体不自由	104	33	20	9	20	16	6
	内部障害	215	98	3	39	75		
小 計		334	124	33	51	87	20	19
若 林 区	視 覚	16	2	7	0	5	2	0
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	23	0	0	3	9	0	11
	肢体不自由	104	33	25	6	14	18	8
	内部障害	191	89	1	42	59		
小 計		564	212	54	88	124	61	25
太 白 区	視 覚	29	4	9	1	4	9	2
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	39	0	0	8	15	0	16
	肢体不自由	221	67	45	17	33	52	7
	内部障害	275	141	0	62	72		
小 計		440	176	51	72	103	22	16
泉 区	視 覚	31	7	11	0	3	10	0
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	31	1	1	8	9	0	12
	肢体不自由	128	50	37	14	11	12	4
	内部障害	250	118	2	50	80		

II 業務の内容・実績

【イ 18歳未満再掲】

(単位：人)

項目		総計	1級	2級	3級	4級	5級	6級
総計	総計	45	22	6	4	11	0	2
	視覚	6	3	0	0	3	0	0
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	2	0	0	0	0	0	2
	肢体不自由	19	10	6	2	1	0	0
	内部障害	18	9	0	2	7		
小計	7	1	2	0	3	0	1	
青葉区	視覚	2	0	0	0	2	0	0
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	1	0	0	0	0	0	1
	肢体不自由	3	0	2	0	1	0	0
	内部障害	1	1	0	0	0		
	小計	2	1	0	1	0	0	0
宮城総合支所	視覚	0	0	0	0	0	0	0
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	0	0	0	0	0	0	0
	肢体不自由	1	1	0	0	0	0	0
	内部障害	1	0	0	1	0		
	小計	8	5	0	0	3	0	0
宮城野区	視覚	1	0	0	0	1	0	0
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	0	0	0	0	0	0	0
	肢体不自由	3	3	0	0	0	0	0
	内部障害	4	2	0	0	2		
	小計	7	3	2	0	1	0	1
若林区	視覚	1	1	0	0	0	0	0
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	1	0	0	0	0	0	1
	肢体不自由	3	1	2	0	0	0	0
	内部障害	2	1	0	0	1		
	小計	10	6	2	0	2	0	0
太白区	視覚	0	0	0	0	0	0	0
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	0	0	0	0	0	0	0
	肢体不自由	4	2	2	0	0	0	0
	内部障害	6	4	0	0	2		
	小計	11	6	0	3	2	0	0
泉区	視覚	2	2	0	0	0	0	0
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	0	0	0	0	0	0	0
	肢体不自由	5	3	0	2	0	0	0
	内部障害	4	1	0	1	2		

(3) 令和元年度末現在の手帳保持者数

① 等級別・障害別の手帳保持者数（全市版）

【ア 総数】

（単位：人）

項目		総計	1級	2級	3級	4級	5級	6級
総計		32,718	11,008	4,979	5,064	7,378	2,546	1,743
内 訳	視覚障害	2,226	726	752	101	188	370	89
	聴覚・平衡・音声・言語・そしゃく	2,935	77	772	471	779	17	819
	聴覚	2,465	46	743	228	627	2	819
	平衡	22	0	0	7	0	15	
	音声・言語・そしゃく	448	31	29	236	152		
	肢体不自由	16,292	3,219	3,278	2,774	4,027	2,159	835
	上肢	5,793	2,024	1,869	836	433	306	325
	下肢	8,737	623	810	1,595	3,568	1,634	507
	体幹	1,294	235	524	324	4	207	
	上肢機能	274	231	23	10	7	3	0
	移動機能	194	106	52	9	15	9	3
	内部障害	11,265	6,986	177	1,718	2,384		
	心臓	6,042	4,511	32	832	667		
	じん臓	2,623	2,294	24	291	14		
	呼吸器	675	90	19	458	108		
	ぼうこう・直腸	1,671	9	7	90	1,565		
	小腸	30	14	4	7	5		
免疫	153	17	77	38	21			
肝臓	71	51	14	2	4			

Ⅱ 業務の内容・実績

【イ 18歳未満再掲】

(単位：人)

項 目		総計	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級
総 計		640	337	132	68	58	19	26
内 訳	視 覚 障 害	42	22	3	1	8	8	0
	聴覚・平衡・音声・言語・そしゃく	94	0	54	15	9	1	15
	聴 覚	93	0	54	14	9	1	15
	平 衡	0	0	0	0	0	0	
	音声・言語・そしゃく	1	0	0	1	0		
	肢 体 不 自 由	388	249	73	27	18	10	11
	上 肢	71	35	13	15	1	5	2
	下 肢	105	43	35	8	10	0	9
	体 幹	21	11	5	1	0	4	
	上肢機能	111	101	8	2	0	0	0
	移動機能	80	59	12	1	7	1	0
	内 部 障 害	116	66	2	25	23		
	心 臓	34	24	1	5	4		
	じ ん 臓	5	3	0	2	0		
	呼 吸 器	39	27	0	8	4		
	ぼ う こ う ・ 直 腸	26	2	1	8	15		
	小 腸	4	2	0	2	0		
免 疫	0	0	0	0	0			
肝 臓	8	8	0	0	0			

② 障害別・等級別手帳保持者数（区別）

【ア 総数】

（単位：人）

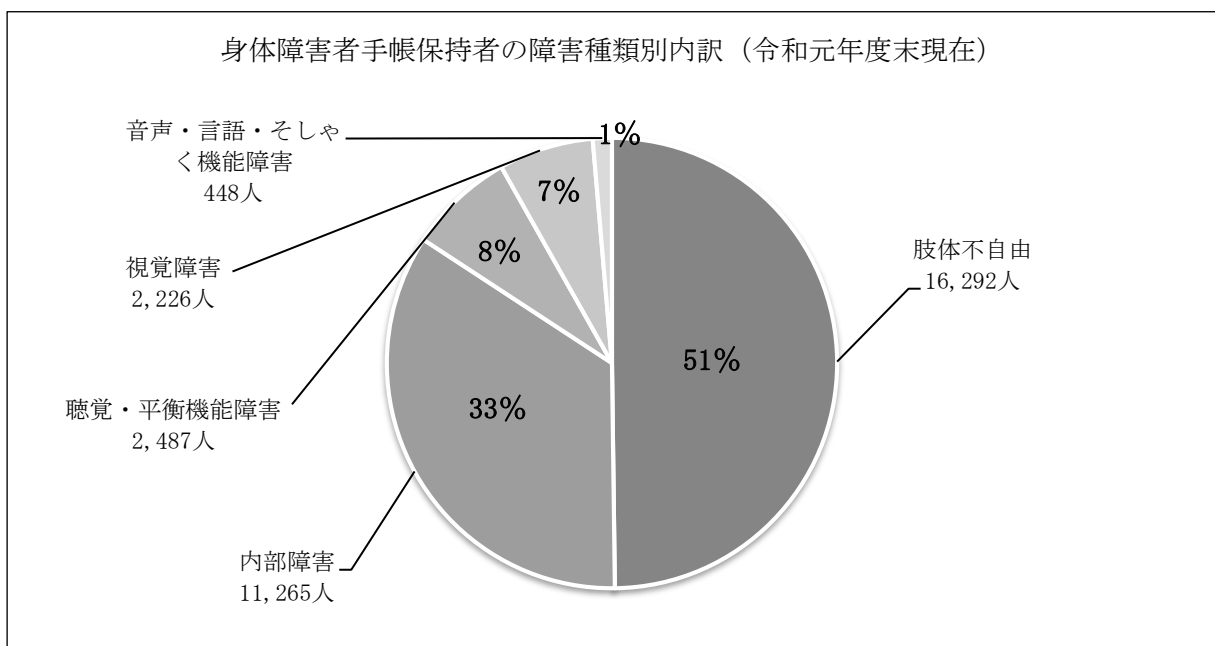
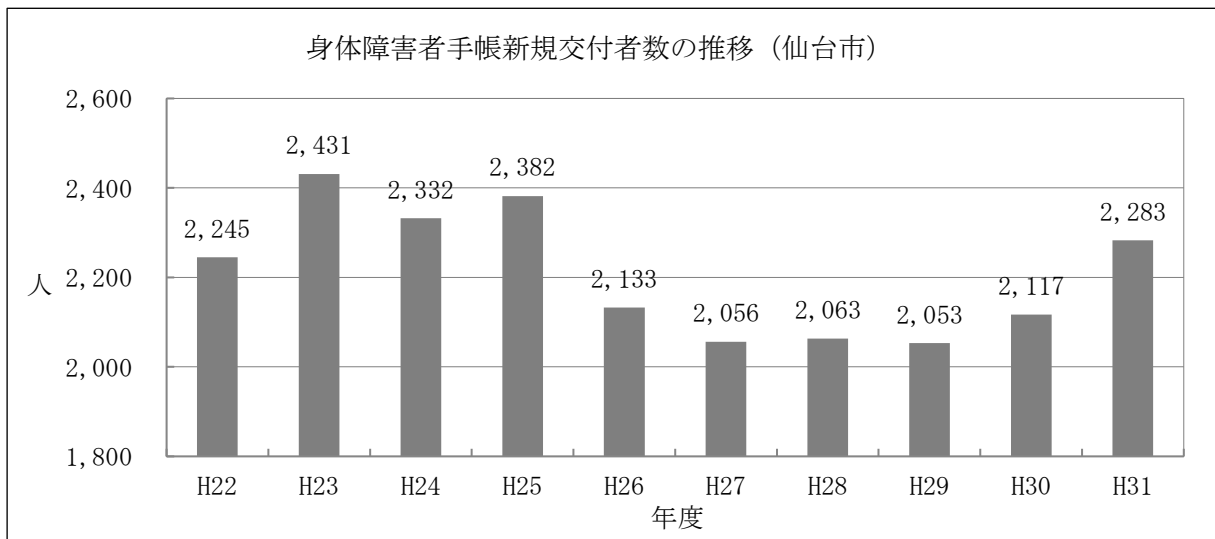
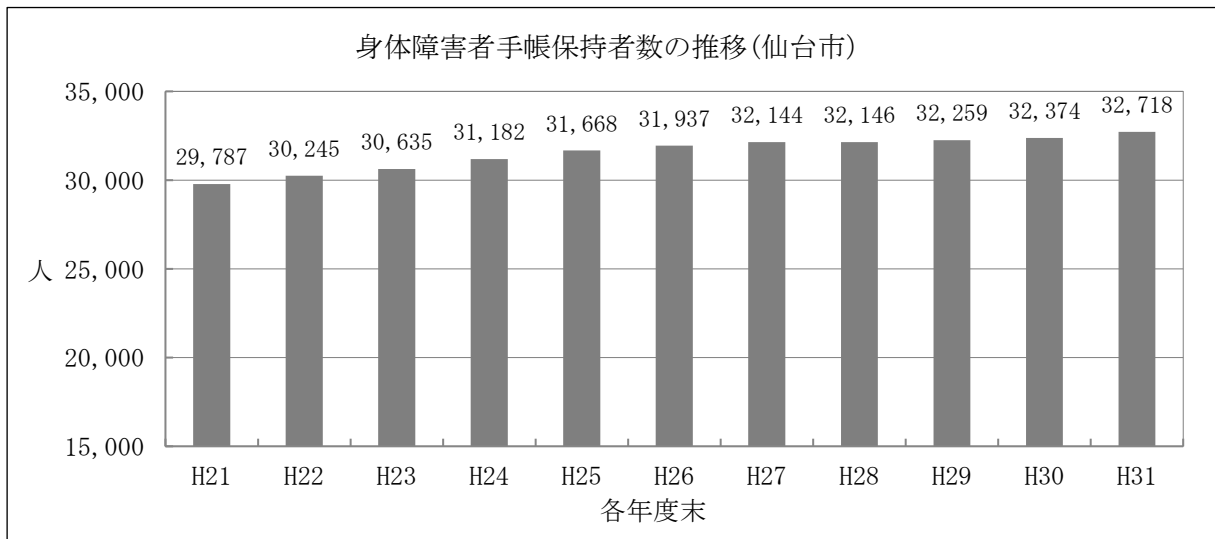
項目	総計	1級	2級	3級	4級	5級	6級	
総計	32,718	11,008	4,979	5,064	7,378	2,546	1,743	
総計	視覚	2,226	726	752	101	188	370	89
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	2,935	77	772	471	779	17	819
	肢体不自由	16,292	3,219	3,278	2,774	4,027	2,159	835
	内部障害	11,265	6,986	177	1,718	2,384		
小計	6,359	2,103	952	981	1,468	500	355	
青葉区	視覚	513	165	180	20	50	82	16
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	600	11	119	109	178	4	179
	肢体不自由	3,017	551	594	508	790	414	160
	内部障害	2,229	1,376	59	344	450		
小計	2,179	787	300	329	488	166	109	
宮城総合支所	視覚	139	58	42	5	7	18	9
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	182	5	39	23	62	1	52
	肢体不自由	1,136	266	210	191	274	147	48
	内部障害	722	458	9	110	145		
小計	5,570	1,840	887	885	1,230	402	326	
宮城野区	視覚	419	133	137	25	40	63	21
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	481	19	135	77	120	3	127
	肢体不自由	2,771	488	582	501	686	336	178
	内部障害	1,899	1,200	33	282	384		
小計	4,355	1,436	631	704	993	328	263	
若林区	視覚	285	82	111	9	23	47	13
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	422	8	106	61	118	0	129
	肢体不自由	2,116	406	394	381	533	281	121
	内部障害	1,532	940	20	253	319		
小計	7,965	2,694	1,244	1,180	1,810	650	387	
太白区	視覚	507	175	167	23	42	83	17
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	742	17	240	110	186	4	185
	肢体不自由	4,075	900	809	628	990	563	185
	内部障害	2,641	1,602	28	419	592		
小計	6,290	2,148	965	985	1,389	500	303	
泉区	視覚	363	113	115	19	26	77	13
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	508	17	133	91	115	5	147
	肢体不自由	3,177	608	689	565	754	418	143
	内部障害	2,242	1,410	28	310	494		

II 業務の内容・実績

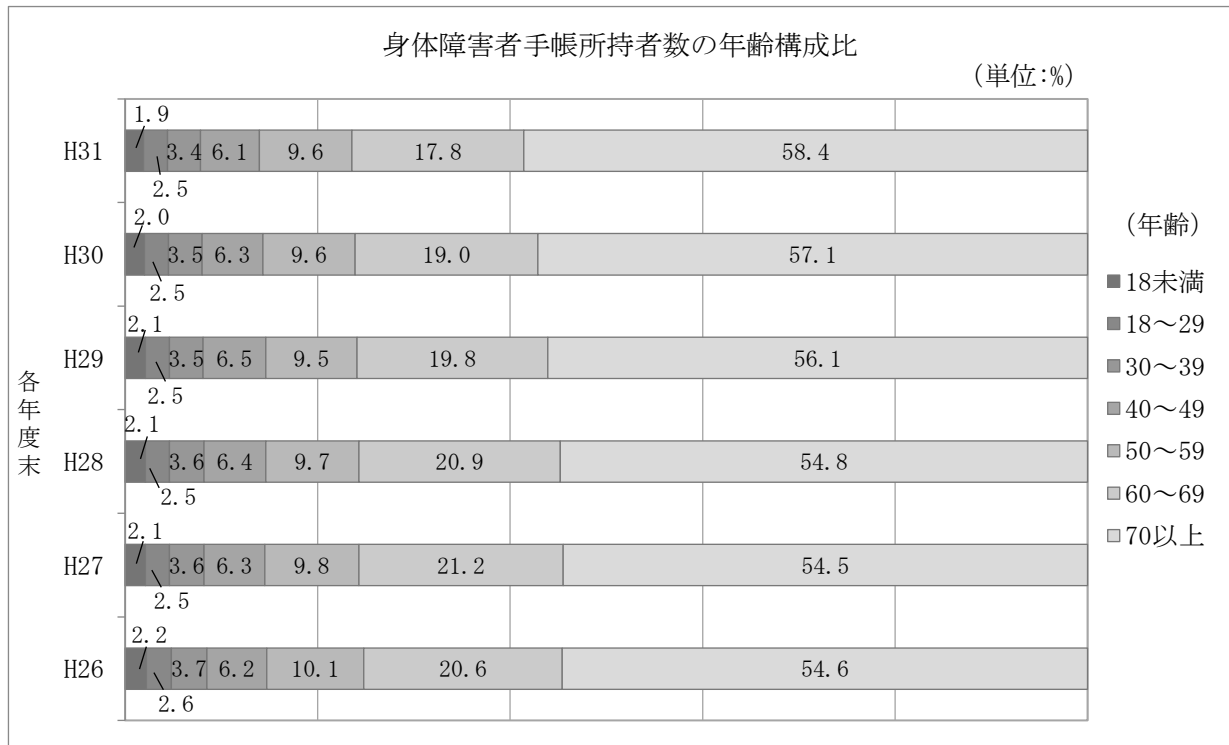
【イ 18歳未満再掲】

(単位：人)

項目	総計	1級	2級	3級	4級	5級	6級	
総計	640	337	132	68	58	19	26	
総計	視覚	42	22	3	1	8	8	0
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	94	0	54	15	9	1	15
	肢体不自由	388	249	73	27	18	10	11
	内部障害	116	66	2	25	23		
小計	100	50	17	8	17	3	5	
青葉区	視覚	9	3	0	0	4	2	0
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	11	0	3	1	4	0	3
	肢体不自由	60	35	14	1	7	1	2
	内部障害	20	12	0	6	2		
小計	71	48	11	7	3	1	1	
宮城総合支所	視覚	5	3	1	0	0	1	0
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	3	0	2	1	0	0	0
	肢体不自由	50	40	7	2	0	0	1
	内部障害	13	5	1	4	3		
小計	99	58	18	9	7	2	5	
宮城野区	視覚	10	7	0	1	1	1	0
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	10	0	7	1	1	0	1
	肢体不自由	65	43	11	3	3	1	4
	内部障害	14	8	0	4	2		
小計	68	32	18	7	5	4	2	
若林区	視覚	3	1	1	0	1	0	0
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	15	0	11	2	0	0	2
	肢体不自由	39	22	6	4	3	4	0
	内部障害	11	9	0	1	1		
小計	176	86	43	18	13	5	11	
太白区	視覚	9	5	1	0	0	3	0
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	39	0	22	5	4	0	8
	肢体不自由	96	61	20	8	2	2	3
	内部障害	32	20	0	5	7		
小計	126	63	25	19	13	4	2	
泉区	視覚	6	3	0	0	2	1	0
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	16	0	9	5	0	1	1
	肢体不自由	78	48	15	9	3	2	1
	内部障害	26	12	1	5	8		



II 業務の内容・実績



4 指定医師（身体障害者福祉法第 15 条）及び 指定自立支援医療機関（障害者総合支援法第 59 条）の指定業務

「身体障害者福祉法第 15 条」に規定される身体障害者手帳交付のための診断を行う医師の指定及び「障害者総合支援法第 59 条」に規定される自立支援医療（育成医療・更生医療）を担当する医療機関の指定を行っている。

(1) 身体障害者福祉法第 15 条に規定する指定医師数（部位別）

令和 2 年 3 月 31 日現在

（単位：人）※延人数

障害部位	視覚	聴覚	平衡	音声・言語	そしやく	肢 体	心 臓	じ ん 臓	呼 吸 器	ぼうこう・直腸	小 腸	免 疫	肝 臓	計
医師数	144	121	205	267	187	941	527	506	545	396	406	21	114	4,380

※複数の障害部位の指定を受けている医師がいるため、医師の実数は 1,637 人

(2) 障害者総合支援法第 59 条に規定する指定自立支援医療機関数（更生医療・育成医療）

令和 2 年 3 月 31 日現在

（単位：所）

医療の種類	病院又は診療所														薬 局	指定訪問看護 事業者等	
	眼 科	耳鼻咽喉科	口 腔	整形外科	形成外科	中枢神経	脳神経外科	心臓脈管外科	心臓移植	じ ん 臓	じ ん 臓 移 植	小 腸	歯科矯正	免 疫			肝臓移植
機関数	4	7	6	16	3	1	3	9	1	32	3	3	17	4	3	325	2

地域リハビリテーション推進事業

身体障害への支援に加え、高次脳機能障害や難病等、地域での支援体制が充分ではない障害を対象として専門的な支援を行い、どのような障害があっても、本人の望む場所でその人らしく生活できる地域づくりを推進するために、次の事業を実施している。

1 高次脳機能障害者支援事業

頭部外傷や脳血管疾患等による脳損傷の後遺症である高次脳機能障害は、「見えない障害」とも言われ、症状が多様で複雑なことなどから地域で十分な支援が受けられない状況にある。当センターでは、平成 21 年度から高次脳機能障害に関する総合相談を開始し、平成 24 年度からは、研修事業も実施している。これらの事業をとおして、高次脳機能障害者が身近な支援機関（医療機関、相談支援事業所、障害福祉サービス事業所、介護保険事業所等）で切れ目のない支援を受け、地域で自立した生活を送ることができるような仕組みづくりを目指している。

(1) 総合相談

保健師、作業療法士、心理判定員等の専門職チームが多角的な見地からアセスメントを行い、支援の方向性を見出すことを目的として実施している。

① 支援実人数・支援回数

支援実人数 100 人
支援回数 526 回

② 支援の方法

(単位：回)

訪問	43
来所	40
同行	35
電話・FAX	173
電子メール	1
個別支援会議	43
関係機関との連携・調整	187
その他	3
計	526

③ 支援の内容 (単位：回) ※延回数

福祉サービスの利用等	250
障害や病状の理解	84
健康・医療	48
不安の解消・情緒安定	50
保育・教育	0
家族関係・人間関係	3
家計・経済	2
生活技術	21
就労	66
社会活動・余暇	9
権利擁護	1
評価・訓練支援	14
その他	20
計	568

(2) 研修事業

一般市民及び経験が浅い支援者を対象とした基礎講座と、支援者を対象とした専門研修を実施している。

名 称	高次脳機能障害基礎講座	実 施 日	令和元年 5 月 10 日
対 象	一般市民・経験が概ね 3 年未満の支援者	参加人数	89 人
会 場	障害者総合支援センター 研修室 1		
内 容	≪高次脳機能障害に関する基本的知識≫ ①高次脳機能障害について ②高次脳機能障害が有る方への社会資源 ③高次脳機能障害者の支援の実際～事例を通じた支援の紹介～		
講 師	①②障害者総合支援センター 主査 佐藤 維子 ③太白障害者福祉センター 理学療法士 阿部 伸明 氏		
開催主体	障害者総合支援センター		

名 称	高次脳機能障害支援者ステップアップ研修 (全 4 回)	実 施 日	①令和元年 8 月 30 日 ②令和元年 9 月 27 日 ③令和元年 11 月 5 日 ④令和元年 12 月 14 日
対 象	高次脳機能障害者を支援する職員で、高次脳機能障害に関する基礎的な知識を有している者	参加人数	①41 人 ②40 人 ③27 人 ④35 人
会 場	障害者総合支援センター 研修室 1		
内 容	①「高次脳機能障害と共に生活する」 (1) 高次脳機能障害について～当事者の立場から～ (2) 家族への支援について (3) 障害受容とは何か ②「高次脳機能障害をアセスメントする」 高次脳機能障害チェックリストの使い方～生活、就学、仕事、自動車運転への影響 ③「アセスメントを支援に活かす」 (1) 地域生活支援に役立つアセスメントとは (2) ICF を活用した事例の検討 ④「支援方法を学ぶ」 ポジティブな行動支援～注意機能を改善する支援方法について		
講 師	① (1) (2) 当事者 (2) 障害者総合支援センター 主査 佐藤 維子 (3) 医療法人小島慈恵会小島病院 臨床心理士 後藤 貴浩 氏 ②医療法人社団健脳会仙台リハビリテーション病院 リハビリテーション部副部長 原田 勝行 氏 ③ (1) 東北福祉大学総合福祉学部 准教授 竹之内 章代 氏 (2) 荒井東居宅介護事業所 管理者 星 貴範 氏 障害者総合支援センター 主査 佐藤 維子 ④医療法人敬智会梶原病院 内科部長 梶間 剛 氏		
開催主体	障害者総合支援センター		

II 業務の内容・実績

(3) 地域リハビリテーション事例検討会

支援者を対象とし、実際に支援している事例を通して高次脳機能障害やその支援について理解を深める場として、定期的に事例検討会を開催した。事務局は仙台市立病院地域医療連携室と共同で担っている。

名 称	仙台市地域リハビリテーション事例検討会	実 施 日	令和2年1月21日
対 象	高次脳機能障害者支援に携わっている者	参加人数	13人
会 場	市立病院 研修医実習室		
内 容	事例報告		
助 言 者	仙台市立病院 脳神経外科部長 刈部 博 氏 東北こども福祉専門学院 副学院長 大坂 純 氏		
開催主体	障害者総合支援センター・市立病院地域医療連携室		

(4) 高次脳機能障害家族教室

高次脳機能障害者を家庭で支えている家族は、高次脳機能障害による様々な言動に強いストレスを感じていると考えられる。家族自身が障害への理解を深め、理解に基づいて対応できるようになることを目指し、家族教室（全5回）を開催した。

開催日	内容	参加人数
令和元年6月7日	講話「高次脳機能障害について」・ストレッチ・話し合い	10人
令和元年6月21日	講話「高次脳機能障害が利用できる制度」・ストレッチ・話し合い	8人
令和元年7月5日	講話「ストレスとの付き合い方」・ストレッチ・話し合い	8人
令和元年7月19日	講話「注意障害・記憶障害との付き合い方」・ストレッチ・話し合い	9人
令和元年8月2日	講話「同じ立場の家族と話す意味」・ストレッチ・話し合い	8人

(5) 高次脳機能障害家族交流会

高次脳機能障害者を家庭で支えている家族は、高次脳機能障害による様々な言動に強いストレスを感じていると考えられる。家族が障害への対応を家族で抱え込まないことや他の家族とのつながりを増やすことを目指し、家族交流会を毎月開催した。

開催日	内容	参加人数（延）
平成31年4月～令和2年3月(全12回)	フリートーク	48人

(6) 児童支援事例検討会（令和元年度新規事業）

高次脳機能障害がある児童や、児童期から高次脳機能障害がある成人への支援については、発達相談支援センターとの連携が重要である。児童期の高次脳機能障害支援の課題や、各機関の機能などについて、実際に支援している事例を通して理解を深めるため、事例検討会を開催した。

名 称	児童期に受障した高次脳機能障害者支援に関する事例検討会	実 施 日	①令和2年1月7日 ②令和2年2月14日
対 象	北部発達相談支援センター職員 南部発達相談支援センター職員 障害者総合支援センター職員	参加人数	①20人 ②30人
会 場	①障害者総合支援センター 研修室1 ②南部発達相談支援センター 会議室		
内 容	講話「高次脳機能障害の基礎と児童期の課題について」 事例検討（3事例）		
開催主体	障害者総合支援センター・北部発達相談支援センター		

II 業務の内容・実績

2 視覚障害者支援事業

途中で視覚障害となった方は、疾病等による急激な視力の低下や視野狭窄で日常生活に困難が生じ、精神的ショックから引きこもってしまうなど、社会参加や福祉サービスの利用につながらない例が多い。当センターでは、そのような途中で視覚障害となった方の地域生活を支援し、就労を含めた社会参加の促進を図るための支援システムの構築を進めている。

具体的には、平成 17 年に官民協働で NPO 法人アイサポート仙台を立ち上げ、「仙台市中途視覚障害者支援センター」を開設した。平成 30 年 8 月より活動拠点を仙台市障害者総合支援センター内に移転し、名称を「仙台市視覚障害者支援センター」に変更して引き続き相談支援等を行う生活支援事業を実施している。また、平成 17 年 4 月より（公財）日本盲導犬協会仙台訓練センターに委託して、白杖歩行等の訓練を行う生活訓練事業を実施している。

さらに、NPO 法人アイサポート仙台が平成 19 年 2 月から創作活動・レクリエーション活動等の地域生活支援事業を行うために開設した障害者地域活動推進センター「きりん」に対し、その運営費を補助している。

(1) 生活支援事業（委託先：NPO 法人アイサポート仙台）

視覚障害となった方及びその家族を支援するための総合相談窓口として、「仙台市視覚障害者支援センター」を開設し、下記の事業を行っている。

名 称	仙台市視覚障害者支援センター
住 所	仙台市泉区泉中央 2 丁目 24-1 仙台市障害者総合支援センター内
電 話	022-341-1728
ファクス	022-341-1729
相談日・時間	月曜日から金曜日午前 9 時から午後 6 時まで

① 相談事業

視覚障害となった方及びその家族、医療機関や行政機関等からの相談について、専門的知識を有する相談員が対応している。ニーズに応じて、各種保健福祉サービス等の利用援助や、専門機関等の紹介なども行っている。

ア 利用者数（居住区別）

(単位：人)

青 葉	宮城野	若 林	太 白	泉	不明・その他	計
99	48	36	68	68	6	325

イ 相談件数

(単位：件)

電 話	来 所	訪 問	文 書	ケア会議	計
1,457	361	454	354	21	2,647

ウ 関係機関・施設からの相談

(単位：件)

行政機関	医療機関	福祉機関	教育機関	その他	計
33	28	33	2	11	107

② 視覚障害リハビリテーション事業

平成 25 年 4 月より、途中で視覚障害となった方で、求職中もしくは就労の継続を希望する方を対象に、通勤のための歩行訓練や画面読み上げソフトを使用したパソコン訓練等及び、就職活動の支援を通所により実施している。

ア 利用者数 (単位：人)

就労中	求職中	計
18	10	28

イ 訓練内容 (単位：回)

訓練内容	延回数
歩行訓練	18
パソコン訓練(タイピング、ワード、エクセルなど)	145
点字	21
ロービジョン訓練*	30
その他	19
計	233

※ロービジョン訓練とは、見えにくい方が、自分の見え方を知り、保有する視覚機能を最大限に活用するための訓練のこと

ウ 進路状況 (単位：人)

就 職	求職中	その他	計
19	5	4	28

③ 交流会

途中で視覚障害となった方及びその家族の情報交換や交流の場として、交流会を開催している。

(単位：人)

内 容	会 場	回 数	参加延人数
中途視覚障害者交流会	仙台市福祉プラザ・市民センター等	11	117
働きたい・働き続けたい方の交流会	仙台市福祉プラザ	2	24

II 業務の内容・実績

④ 研修会・講演会

ア 地域リハビリテーション支援者養成研修（視覚障害）

障害者福祉サービス事業所や介護保険・高齢者福祉関連の事業所に所属のスタッフを対象に視覚障害者支援に関する知識や技術の向上を図ることを目的とする研修会を開催した。

名 称	視覚障害リハビリテーション・生活支援研修会	実 施 日	令和2年2月17日
対 象	障害者福祉や高齢者福祉、介護保険サービス等の従事者	参加人数	26名
会 場	障害者総合支援センター 研修室1		
内 容	「中年期・高齢期に多い眼の病気と生活支援のポイント」 ①疾患を知り、体験してみよう ②サポートの仕方 ③視覚に障害のある方の障害福祉サービス		
講 師	①仙台市視覚障害者支援センター 相談員・視能訓練士 丹野 由加里 氏 仙台市視覚障害者支援センター 相談員・視能訓練士 西山 貴大 氏 ②仙台市視覚障害者支援センター 主任相談員・歩行訓練士 善積 有子 氏 ③仙台市視覚障害者支援センター 主任相談員・社会福祉士 阿部 直子 氏		
開催主体	仙台市視覚障害者支援センター、障害者総合支援センター		

イ その他

途中で視覚障害となった方への理解の促進や、援助技術の普及啓発等を内容とした各種研修会を実施している。

事業名	回数	参加延人数
ロービジョン勉強会	11回	260
ボランティア講座・研修会	4回	16
ワンポイント講座	6回	21

⑤ 「eye eye（アイアイ）福祉機器展」－視覚障害のある方のための生活用具展示会－の開催－

視覚障害のある方や家族、支援者に対し、視覚障害のある方の地域生活支援に資する福祉機器類等の情報提供を行うための展示会を毎年開催している。また、会場内には、ひとつでも多くの問題が解決できるように、医療・教育・福祉制度に関する様々な相談に応じるコーナーを設けている。

日 時	令和元年7月6日（土）、7月7日（日）
会 場	仙台市福祉プラザ1階プラザホールほか
参加人数	7月6日(135人) 7月7日(241人) ※延べ376人
内 容	展示会（20団体出展） 関連企画 ①宮城の視覚障害者支援機関紹介コーナー（6機関） ②スポーツチーム・同好会コーナー（1団体） ③相談コーナー（相談者数20人）

(2) 生活訓練事業（委託先：（公財）日本盲導犬協会仙台訓練センター）

途中で視覚障害となった方の自立と社会参加の促進を目的に各種訓練を行っている。

年度内に 26 回を限度とし、指導員が自宅等を訪問し、日常基本動作の習得のための身辺動作訓練、白杖等歩行訓練、ロービジョン訓練、点字やパソコン操作訓練等を行っている。

名 称	(公財) 日本盲導犬協会 仙台訓練センター
住 所	仙台市青葉区茂庭字松倉 12-2
電 話	022-226-3910
ファクス	022-226-3990
相談日・時間	月曜日～金曜日 午前 9 時～午後 6 時

訓練内容	延回数
身辺動作・家事動作訓練	2
白杖歩行訓練	93
パソコン訓練	106
リハビリテーション講習会	9
その他	115
計	325

令和元年度実利用者数：54 人

(3) 障害者地域活動推進センター（運営：NPO 法人アイサポート仙台）

NPO 法人アイサポート仙台が運営する障害者地域活動推進センター「きりん」の運営費を補助している。同センターは、視覚障害のある方が地域で生き生きと生活できるよう、自立の促進、生活の質（QOL）の向上、地域住民との積極的な交流等を図ることを目的に、創作的活動やレクリエーション活動などを実施している。

活動内容は、創作的活動や、外出機会の提供として市内散策、スポーツ・レクリエーション活動としてウォーキングや茶の湯教室等、さまざまな活動を実施している。

名 称	障害者地域活動推進センター「きりん」
住 所	仙台市泉区泉中央 2-24-1 仙台市障害者総合支援センター内
電 話	022-374-1728
ファクス	022-374-1729
開所日・時間	月曜日から金曜日 ※時間は活動内容により異なる
利 用 料	1 日 300 円

登録者数	127 人
利用者数 (延人数)	1,300 人

II 業務の内容・実績

3 包括的呼吸リハビリテーション事業

呼吸器疾患や障害のある方は、息切れや息苦しさ、またはその不安感から活動が制限されることが多い。身体機能は徐々に衰え、呼吸器機能の低下を招きやすい。そのため、社会活動や余暇活動への参加は狭まり、生活の質（QOL）の低下につながっている。

呼吸器障害のある方が、楽しみや生きがいを見つけ、社会生活が継続できるような支援システムの構築を目指し、以下の事業に取り組んでいる。

① 呼吸健康教室（委託先：社会福祉法人仙台市障害者福祉協会）

呼吸器疾患や障害のある方が、少しでも楽に日常生活が過ごせるよう、当事者もしくは、その家族が疾患特性を理解し、自己管理能力を高めるための知識を学ぶ場を提供している（1教室5回、年2回実施）。実施プログラムは、①口すぼめ呼吸法の習得、②栄養管理の知識構築、③歩数計の活用、④日常生活で行える運動実技の習得、⑤当事者同士の情報交換の場の提供等である。

本教室の運営は、平成27年度より社会福祉法人仙台市障害者福祉協会に委託しており、当事者団体である全国低肺機能者グループ東北白鳥会や関係団体等の協力を得ながら、円滑な教室の運営に努めている。

なお、プログラムの見直しについて、本教室監修である東北大学教授 黒澤一氏に助言を頂き実施した。

平成28年度から平成30年度にかけて呼吸健康教室に参加した者に対して、教室参加後の生活におけるプログラムの活用とその有効性に関するアンケート調査を行った。

名 称	呼吸健康教室			
実施日	春教室・令和元年6月12日～7月10日の各水曜日（全5回） 秋教室・令和元年9月18日～10月16日の各水曜日（全5回）			
対 象	在宅の呼吸器疾患患者とその家族		参加人数	延べ113人
会 場	春教室	障害者総合支援センター	秋教室	福祉プラザ
内 容			春教室	秋教室
	①	講 話	呼吸器患者さんが健康に過ごすために	同左
		歩数計	歩数計の活用【1】	
		交流会	交流会	
	②	講 話	自分の体で測る健康度	⑥おいしく食べて、栄養しっかり
		体験談	呼吸器障害と当事者活動	同左
		体 操	寝ころがってゆっくりと	
		歩数計	歩数計の活用【2】	
	③	講 話	日常生活の注意で体調をよくしましょう	⑦自分の体で測る健康度
		体 操		⑧椅子でのストレッチと足の筋トレ
		体 験	フライングディスク体験会	
		歩数計	歩数計の活用【3】	同左
	④	講 話	おいしく食べて、栄養しっかり	⑨日常生活の注意で体調をよくしましょう
		体 操	椅子座位や立位での体操	
		体 験		⑩フライングディスク体験会
		歩数計	歩数計の活用【4】	同左
	⑤	体 験	仙台市健康増進センター体験会	
		体 操		⑪立つ、歩くで足腰の筋力アップ
		歩数計	歩数計の活用【5】	同左
		交流会	交流会	
講 師	《講話》 ①東北大学環境・安全推進センター 教授 黒澤 一 氏 ②・⑦東北医科薬科大学若林病院副院長 高橋 識至 氏 ③・⑨仙台赤十字病院 第一呼吸器科部長 三木 誠 氏 ④・⑥仙台白百合女子大学 健康栄養学科 教授 佐々木 裕子 氏 《体験談》 ②東北白鳥会会長 高橋 昭 氏 《体操》 ②東北大学病院 理学療法士 新國 悦弘 氏 ④・⑧・⑩東北福祉大学リハビリテーション学科 助教 小林 大介 氏 《歩数計》 ①～⑤東北大学環境・安全推進センター 教授 黒澤 一 氏 《フライングディスク体験会》 ③・⑩宮城野障害者福祉センター 佐藤 一樹 氏 《健康増進センター体験会》 ⑤仙台市健康増進センター職員			
開催主体	主催：障害者総合支援センター 監修：東北大学環境・安全推進センター 教授 黒澤 一 氏 運営：仙台市障害者福祉協会 協力：東北大学大学院医学系研究科産業医学分野、帝人在宅医療株式会社 全国低肺機能者グループ東北白鳥会			

II 業務の内容・実績

② 呼吸リハビリテーション支援者研修会（委託先：社会福祉法人仙台市障害者福祉協会）

障害者相談支援事業所、障害者福祉センター、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、訪問介護事業所（ヘルパー）、訪問看護事業所（看護師）、行政等の関係機関職員に対し、呼吸器疾患の特性理解、支援の工夫につながる知識提供等を行い、呼吸器障害のある方への支援力の向上を目指している。

名 称	呼吸リハビリテーション支援者研修会	実 施 日	令和2年2月10日
対 象	呼吸器疾患や障害に携わる事業所等	参加人数	51人
会 場	障害者総合支援センター 研修室1、研修室2		
内 容	①呼吸器疾患に関する基礎知識 ②在宅酸素療法の理解（機器説明等）		
講 師 等	①東北大学環境・安全推進センター 教授 黒澤 一 氏 ②協力：フクダライフテック南東北株式会社 株式会社小池メディカル仙台営業所		
開催主体	障害者総合支援センター		

4 重度障害者コミュニケーション支援事業

意思の表出に高い困難性を有する ALS（筋萎縮性側索硬化症）等の進行性神経難病患者や重度障害者の生活の質（QOL）の向上のために、意思伝達装置等を活用してコミュニケーションが確保できるよう、迅速かつ継続的な支援を提供するシステムの構築を図っている。

(1) 重度障害者コミュニケーション支援センター運営 (委託先：NPO 法人せんだいアビリティネットワーク)

意思伝達装置は、平成 18 年度から補装具費の支給対象種目となったが、使用可能と思われる方の数と比較して支給件数が少ないこと、支給を受けてもスイッチの不具合等で活用できていない方が少なくないこと、スイッチの調整等の支援がごく少数の技術者によるボランティア的支援に委ねられていること等、複数の課題があった。

そのため、当センターでは、支援関係者や当事者からの聞き取り調査及び他自治体における先駆的取り組みに係る調査を経て、平成 22 年度にコミュニケーション支援機関検討委員会を設置し、在宅訪問によるコミュニケーション支援の提供を中心とした、技術的支援を行う新たな機関のあり方について検討を行った。その結果に基づき、平成 23 年 5 月に「仙台市重度障害者コミュニケーション支援センター」を開設した。

「仙台市重度障害者コミュニケーション支援センター」は、意思伝達装置等の入力スイッチや機器の調整等に関して、訪問等により迅速かつ継続的な支援を提供している。

名 称	仙台市重度障害者コミュニケーション支援センター
住 所	仙台市青葉区千代田町 1-5-108
電 話	022-779-6873
ファクス	022-779-6874
開所日・時間	月曜日から日曜日 午前 8 時 30 分から午後 5 時まで

① 支援実人数・支援回数

支援実人数 79 人（新規 20 人）
支援回数 1,381 回

② 支援の方法 (単位：回)

訪 問	874
電子メール・電話での支援	268
支援に関わる機器の準備（加工・開発等）	215
関係機関との連携（ケア会議等）	10
研修の実施及び講師派遣	14
計	1,381

II 業務の内容・実績

③ 訪問における支援の内容

(単位：回) ※延回数

入力スイッチに関するもの	48
意思伝達装置の設定に関するもの	57
コールに関するもの	17
学習リモコンに関するもの(家電の操作設定等)	29
その他周辺機器等に関するもの	11
機器の使用環境に関するもの(固定具等)	73
機器の故障確認	84
入退院等に伴う機器の再設定	86
軽微な機器等のメンテナンス	41
アプリケーションソフト対応に関するもの	73
試用機会の提供及び操作指導	428
使用状況の確認及び評価	135
関係機関とのケア会議等	12
情報提供	50
補装具費支給判定同行	19
その他	86
計	1,249

(2) 支援者養成研修

地域で重度障害者と関わることの多い介護支援専門員、相談支援専門員、訪問看護・訪問リハビリテーション職員等が、コミュニケーション支援の重要性を理解するとともに、意思伝達装置の基本操作が習得できることを目的として開催した。

名 称	重度障害者コミュニケーション支援研修会	実 施 日	令和元年 10 月 31 日
対 象	市内の介護支援専門員、相談支援専門員、訪問看護・訪問リハビリテーション職員等(経験年数5年未満またはコミュニケーション支援に携わったことのない方)	参加人数	38 人
会 場	障害者総合支援センター 研修室 1		
内 容	講義①「仙台市におけるコミュニケーション支援の実際と補装具費支給制度・日常生活用具給付事業について」 講師：障害者総合支援センター 主任 佐々木 恭子 講義②「当事者からのメッセージ～コミュニケーション支援の重要性について～」 講師：土屋 雅史 氏 講義③「事例から学ぶコミュニケーション支援機器について」 講師：仙台市重度障害者コミュニケーション支援センター 木島 真央 氏 機器展示		
開催主体	障害者総合支援センター		

Ⅱ 業務の内容・実績

名 称	重度障害者コミュニケーション支援研修会（演習編）	実 施 日	令和元年11月15日
対 象	市内の介護支援専門員、相談支援専門員、訪問看護・訪問リハビリテーション職員等（コミュニケーション支援に携わったことのある方）	参加人数	14人
会 場	障害者総合支援センター 生活動作体験室1		
内 容	演習「意思伝達装置の基本操作とトラブル対処法について」 講師：仙台市重度障害者コミュニケーション支援センター 木島 真央 氏		
開催主体	障害者総合支援センター		

II 業務の内容・実績

5 生活環境支援事業

身体障害がある方の居住環境における物理的なバリアを改善することで、医療機関や施設から地域（在宅）への移行が円滑になること、そして、住み慣れた地域での生活を維持することができるようになることを目的に、福祉用具支援システムの構築や支援者・関係機関とのネットワークづくりを進めている。

また、障害者の高齢化重度化に適切な支援を行うための人材育成も課題となっている。加齢に伴う身体の変化を理解し、適切な福祉用具を導入することが求められる。一方、介護保険制度の対象となる高齢の障害者の増加においては、身体状況に適合しない既製品の車椅子の使用を継続することで重度化を助長していることも少なくない。そのため、車椅子の適合支援が行える人材を育成するための研修会を開催する。

(1) 福祉用具専門研修→新型コロナウイルス感染症対策のため中止

福祉用具支援に携わる支援者（介護保険領域の支援者を含む）を対象として、福祉用具の相談・選定・適合ができる人材の養成を目的とした研修会を開催している。

名 称	車椅子適合支援研修会	実 施 日	令和2年3月17日
対 象	障害者施設職員 介護支援専門員および福祉用具専門相談員	参加人数	申込数 79名
会 場	障害者総合支援センター 研修室1		
内 容	①講話：障害高齢者の生活を支える車椅子 ～適合する車椅子を導入するためにケアマネジャーとして必要な知識～ ②制度説明		
講 師	①東北福祉大学 総合福祉学部 教授 関川 伸哉 氏 ②障害者総合支援センター 主任 石川 洋子		
開催主体	障害者総合支援センター		

(2) 福祉用具・住宅改修専門相談

当センターに設置している ADL シミュレーションや各種の福祉機器を実際に試し、身体機能を評価しながら、福祉用具の選定や住宅改修のアドバイスを実施している。来所できない方については訪問により対応している。定期開催日を設定し、市政だより等を通じて広く広報を行うとともに、相談支援事業所、地域包括支援センター等に周知を行っている。

対応件数（52件）

来 所	20件
訪 問	32件

(3) 福祉用具の普及啓発（他機関への福祉用具に関する協力等）

共 催	宮城県地域リハビリテーション研修会（共催）	実 施 日	①令和元年8月24日 ②令和元年8月25日
対 象	作業療法士、理学療法士、言語聴覚士	参加人数	延べ74人
会 場	障害者総合支援センター 研修室1		
内 容	講話「仙台市におけるコミュニケーション支援の実際と補装具費支給制度・日常生活用具給付事業について」		
講 師	障害者総合支援センター 主任 佐々木恭子		

6 人材育成

(1) 障害者ケアマネジメント従事者養成研修

「仙台市障害者ケアマネジメント推進事業実施要綱」及び「仙台市障害者保健福祉計画」に基づき、地域リハビリテーションシステムを担う機関のスタッフの支援力向上を図るために、以下の研修を実施している。

なお、企画・運営は、精神保健福祉総合センター、北部発達相談支援センター、南部発達相談支援センター、障害者支援課と協働で行っている。

対象機関は、以下の通りである。区役所障害高齢課、総合支所保健福祉課、専門相談機関、障害者相談支援事業所、指定相談支援事業所、障害者福祉センター、自閉症児者相談センター、第二自閉症児者相談センター、視覚障害者支援センター、障害者就労支援センター、ひきこもり地域支援センター、児童発達支援センター、児童発達支援事業所、難病サポートセンター。

本研修は、「基礎研修」「実践研修」「リーダー研修」「リーダーフォローアップ研修」「管理者研修」「普及啓発研修」で構成されている。令和元年度は、研修体系見直しに伴い、「リーダー研修」「管理者研修」「普及啓発研修」は休止。

① 基礎研修

障害者相談支援に従事する新任者を対象とした研修を実施し、当事者主体の支援手法及びチームによるアプローチなどケアマネジメントの理念の共有、ポイントの確認を行っている。

名 称	基礎研修（前期・後期）	実 施 日	前：令和元年6月25日 後：令和元年10月29日
対 象	・対象機関の新任職員及び相談業務に初めて従事した職員	参加人数	前：62人 後：55人
会 場	障害者総合支援センター 研修室1		
内 容	【前期】 ①ケアマネジメント概論（概要編）（講義） ②ケアマネジメント概論（実践編）（講義・演習） ③支援原則（「利用者本位」「地域生活支援」「協働」の視点）について（演習） ④研修計画（講義） 【後期】 ⑤支援原則の振り返り（講義・演習） ⑥立場の転換について（演習） ⑦当事者を知るためのセッション（講義）		
講 師	①・③・④・⑤東北福祉大学 総合福祉学部社会福祉学科 教授 三浦 剛 氏 ②・⑥自閉症児者相談センター 主任相談員 西田 有吾 氏 ⑦当事者 2名 【演習】 障害者支援課 職員 ファシリテーター（前期・後期） 障害者相談支援事業所ハンズ宮城野 碓井 修二 氏 ピース・スマイル 太田 勇樹 氏 宮城野雲母倶楽部+ら i ふ 大友 宏美 氏 向日葵ライフサポートセンター 片寄 篤志 氏 宮城野障害者福祉センター 高橋 美菜 氏 障害者総合支援センター・北部発達相談支援センター 職員		
開催主体	障害者総合支援センター、精神保健福祉総合センター、北部・南部発達相談支援センター、障害者支援課		

II 業務の内容・実績

② 実践者研修

前記の対象機関で相談業務に2年以上従事している職員を対象に、ケアマネジメントを用いた支援の質の向上を図るために、実践者研修を実施している。

名 称	実践者研修	実 施 日	令和元年12月13日
対 象	対象機関に所属する2年目以上の職員かつ基礎研修を受講したもの	参加人数	30人
会 場	南部発達相談支援センター		
内 容	地域の一員としての生活を支えること～地域資源開発・地域支援とは～（講義・演習）		
講 師	社会福祉法人愛泉会若林区七郷地域包括支援センター所長 矢野 直美 氏 社会福祉法人ふれあいの森障害者相談支援事業所向日葵ライフサポートセンター所長 片寄 篤志 氏 太白区障害高齢課 職員 【演習】 ファシリテーター 障害者総合支援センター 職員 北部発達相談支援センター 職員 南部発達相談支援センター 職員 障害者支援課 職員		
開催主体	障害者総合支援センター、精神保健福祉総合センター、北部・南部発達相談支援センター、障害者支援課		

④ フォローアップ研修

リーダー研修を修了した者を対象としたフォローアップ研修を実施し、各事業所内でスーパービジョンが提供できる職員や、事例検討の場などで地域のリーダーとして活躍できる職員の育成を目指している。

令和元年度は、研修体系見直しに伴い、基礎研修や実践研修への企画運営の協力や研修体系の見直しに係る意見交換会への参加などを中心に実施。

名 称	リーダーフォローアップ研修	実 施 日	①令和元年6月25日 ②令和元年7月9日 ③令和元年10月29日 ④令和元年11月15日 ⑤令和元年12月13日 ⑥令和2年1月15日 ⑦令和2年2月25日
対 象	平成26、28、30年度リーダー研修修了者	参加人数	①6人 ②7人 ③6人 ④10人 ⑤1人 ⑥8人 ⑦7人
内 容	①基礎研修前期 講師・ファシリテーター ②意見交換会 研修体系見直し ③基礎研修後期 講師・ファシリテーター ④意見交換会 研修体系見直し ⑤実践研修 講師 ⑥意見交換会 研修体系見直し ⑦意見交換会 研修体系見直し		
開催主体	障害者総合支援センター、精神保健福祉総合センター、北部・南部発達相談支援センター、障害者支援課		

(2) その他の人材育成業務

将来の障害福祉を担う人材の育成のため、大学からの実習生・インターンシップの受入れ等を実施している。

① 公衆衛生関係実習生受入れ（平成 21 年度から実施）

学 校 名	宮城大学	実 施 日	令和元年 11 月 26 日～令和 2 年 2 月 27 日 ※8 日間（全 4 クール 2 日間ずつ）
内 容	地域看護学実習	人 数	9 人

II 業務の内容・実績

7 普及啓発事業

(1) いず☆ちゅう^{けんこう}健幸祭

障害者総合支援センターの事業を幅広く市民に紹介するとともに、健康づくりや障害に対する理解促進や関心を高めることを目的として、市民向けイベント「いず☆ちゅう健幸祭」を開催した。

① 日時等

ア) 日時・会場

令和元年 11 月 30 日（土） 10：00～16：00
障害者総合支援センター、健康増進センター

イ) 主催

仙台市、(公財) 仙台市健康福祉事業団

② 内 容（仙台市障害者総合支援センター担当分）

コーナー	場 所	内 容	協 力
ミニミニ eye eye 福祉機器展	相談室 5	見えない・見えにくい方のための生活用具を展示、体験	アイサポート仙台
見え方のよろず相談コーナー	視力検査室	簡単な視力検査と相談受付	アイサポート仙台
見えない人へのガイド法講座	相談室 5	目の不自由な方への正しい介助方法を案内	アイサポート仙台
スティックボール体験	廊下	視覚に障害のある方のために考案されたニュースポーツ体験	アイサポート仙台
きこえの体験教室	相談室 2	簡単な聴力検査ときこえのグッズの展示、体験	宮城県言語聴覚士会
「働く」相談・情報コーナー	相談室 3	障害のある方の就労についての相談会、情報コーナー	仙台市障害者就労支援センター
こころの健康チェックコーナー	相談室 4	リラックス度チェッカーによるこころの健康チェック	はあとぽーと仙台

8 難聴児補聴器購入等助成事業

成長期にある乳幼児及び児童の軽度・中等度難聴は、そのままでは言語や認知の発達を阻害する要因になることから、身体障害者手帳の交付対象とならない軽度・中等度難聴児の補聴器購入等の費用の一部を助成している。（平成 25 年 7 月 1 日より施行）

（単位：件）

種 目	決定件数
補聴器本体	7 件
FM型補聴システム	1 件（補聴器本体と同時申請）
イヤモールドのみ	10 件
計	18 件

9 障害者相談員事業（委託先：社会福祉法人仙台市障害者福祉協会）

障害のある方やその家族の身近な支援者として相談に応じ、また障害のある方の地域活動を支える中核として活動することで、地域における相談支援ネットワークの窓口となり、障害のある方に対する市民の理解促進を図ることを目的に、障害者福祉に造詣の深い民間の方々に障害者相談員を委嘱している。任期は2年間で、委嘱者数は29名である。（R2.4.1現在）

本市においては、平成15年に従来の身体障害者相談員、知的障害者相談員の他に独自で精神障害者相談員を加え、平成25年度からは、難病等の方、高次脳機能障害のある方を対象とした相談員も委嘱している。

障害者相談員は、障害者総合支援センター等の専門機関が行う相談指導を除き、次の業務に従事している。

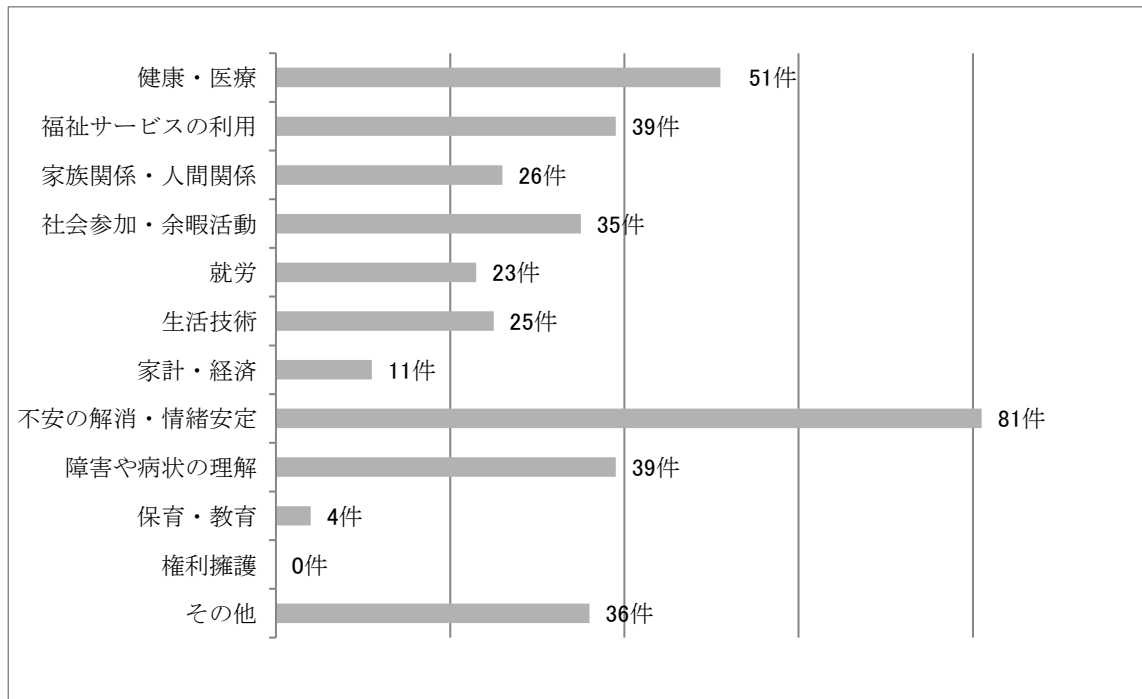
- ・ 障害者に対する市民の理解促進を図ること
- ・ 障害者及びその家族の相談に応じ、必要な援助を行うこと
- ・ 障害者の地域活動の中核として、その活動推進を図ること
- ・ 障害者福祉の増進について関係機関の業務に協力すること
- ・ その他付帯する業務を行うこと

ア 障害分野ごとの相談員の人数（令和2年4月1日現在）

（単位：人）

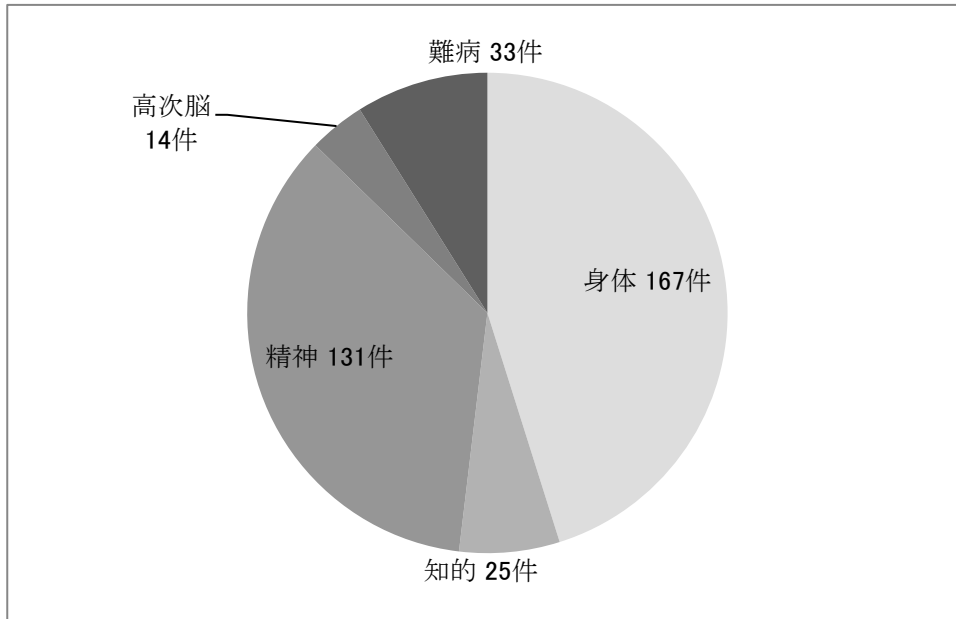
身体障害	知的障害	精神障害	高次脳機能障害	難病	計
19	3	3	1	3	29

イ 相談内容と件数



Ⅱ 業務の内容・実績

ウ 相談者の障害種類別内訳



エ 会議・研修等への参加状況

237 回

※集計期間：平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月

10 自立訓練（機能訓練）事業

市内 4 か所の障害者福祉センターにおいて、本市が指定事業者となり自立訓練事業及び生活介護事業を実施しており（委託事業、障害者支援課所管）、事業に従事する職員の人材養成を、北部発達相談支援センター、南部発達相談支援センター及び当センターが担っている。

当センターは、自立訓練（機能訓練）事業を担当し、研修の企画・運営及び職員に対する技術的バックアップを実施している。また、自立訓練（生活訓練）事業・生活介護事業と共通の研修を、障害者支援課・北部発達相談支援センター・南部発達相談支援センターと協働で実施している。

① 基本研修

名 称	共通研修	実 施 日	令和 2 年 2 月 21 日
対 象	障害者福祉センター職員	参加人数	38 人
会 場	仙台市役所 8 階ホール		
内 容	仙台市障害者福祉センターにおける多職種連携・協働について		
講 師	宮城県介護福祉士会 会長 雫石 理枝 氏		
開催主体	障害者総合支援センター、障害者支援課、北部・南部発達相談支援センター		

名 称	医療的ケア研修	実 施 日	令和元年 10 月～11 月
対 象	障害者福祉センター職員	参加人数	34 人
会 場	若林障害者福祉センター・太白障害者福祉センター		
内 容	実習		
開催主体	障害者総合支援センター、障害者支援課、北部・南部発達相談支援センター		

② 専門職研修

名 称	自立訓練・生活介護事業看護師研修	実 施 日	①令和元年 7 月 10 日 ②令和元年 12 月 17 日
対 象	自立訓練・生活介護事業に従事する看護師	参加人数	①6 人 ②5 人
会 場	仙台市役所北庁舎 C 棟 2 階 作業室		
内 容	①障害者福祉センターにおける看護師の役割について 医療的ケア研修の実施計画について ②医療的ケア研修の振り返り 情報交換		
開催主体	障害者総合支援センター、障害者支援課、北部・南部発達相談支援センター		

II 業務の内容・実績

③ 分野別研修

名 称	自立訓練（機能訓練）事業職員研修	実 施 日	令和元年 12 月 9 日
対 象	各障害者福祉センターの自立訓練（機能訓練）事業に従事する職員	参加人数	25 人
会 場	障害者総合支援センター		
内 容	事例検討		
講 師	宮城野障害者福祉センター職員他		
開催主体	障害者総合支援センター		

名 称	自立訓練（機能訓練）事業 高次脳機能障害支援研修	実 施 日	平成 31 年 4 月～ 令和 2 年 3 月（全 35 回）
対 象	各障害者福祉センターの自立訓練（機能訓練）事業に従事する職員	参加人数	延 119 人
会 場	障害者総合支援センター、太白障害者福祉センター		
内 容	①機能訓練における高次脳機能障害への支援のあり方について ②高次脳機能障害支援の実際		
講 師	障害者総合支援センター職員		
開催主体	障害者総合支援センター		

名 称	先進地視察研修	実 施 日	①令和元年 7 月 29 日 ②令和 2 年 2 月 5 日～2 月 7 日
対 象	障害者福祉センターの自立訓練（機能訓練）事業に従事する職員	参加人数	①1 人 ②1 人
会 場	①千葉県 ②大阪府		
内 容	①柏駅前メンタルクリニック 視察 ②堺市生活リハビリテーションセンター他 視察		
開催主体	障害者総合支援センター		

④ 自立訓練（機能訓練）利用者支援検討会議

自立訓練（機能訓練）利用者に対する的確なアセスメントの実施と、アセスメントに基づいた訓練プログラムの提供ができるように、毎月 1 回全障害者福祉センターと障害者総合支援センター職員とで支援検討会議を開催している。

名 称	自立訓練（機能訓練）事業支援検討会議	実施日	毎月第二木曜日（全 12 回実施）
対 象	各障害者福祉センターの自立訓練（機能訓練）事業に従事する職員	参加人数	延べ人数 82 人
会 場	障害者総合支援センター		
内 容	①機能訓練利用者の現況を確認 ②新たな機能訓練利用者の個別訓練計画案を検討（全 34 件）		
助 言 者	東北こども福祉専門学院 副学院長 大坂 純 氏		
開催主体	障害者総合支援センター		

⑤ 高次脳機能障害者生活訓練事業

高次脳機能障害への訓練を提供するため、4 か所の機能訓練事業所の協力を得ながら、週に 1 回の定期的な集団訓練を実施している。

名称	高次脳機能障害者生活訓練事業	実施日	①平成 31 年 4 月～令和元年 9 月(毎月 1 回) ②令和元年 10 月～令和元年 3 月(週 1 回) ※合計 26 回実施
対象	市内に住む高次脳機能障害の診断が付いている 18 歳以上の者	利用人数	利用実人数 30 人 利用延べ人数 325 人
会場	太白障害者福祉センター		
内容	集団訓練 ・机上での認知課題 ・話し合い ・スポーツ ・心理教育		
開催主体	障害者総合支援センター		

(参考) 自立訓練(機能訓練)事業の利用実績と委託先

	宮城野障害者福祉センター	若林障害者福祉センター	太白障害者福祉センター	泉障害者福祉センター
利用実績	延 1716 人 (1 日平均 6.8 人)	延 1213 人 (1 日平均 4.8 人)	延 1164 人 (1 日平均 4.6 人)	延 699 人 (1 日平均 2.8 人)
委託先	(社福) 仙台市障害者福祉協会			(社福) 仙台市社会福祉協議会

難病支援事業

難病の患者に対する良質かつ適切な医療の確保を図るとともに、難病の患者及びその家族が地域で安心して暮らすことができるよう環境を整えることを目的に、次の事業を実施している。

1 指定難病医療費助成

「難病の患者に対する医療等に関する法律」（平成 26 年法律第 50 号。以下「難病法」という。）に基づき、特定医療費（指定難病）の支給認定、医療受給者証の交付を行っている。令和 2 年 4 月 1 日現在、医療費助成対象疾患数は 333 となっている。

また、難病法第 14 条に規定される特定医療を実施する医療機関の指定及び難病法施行規則第 15 条に規定する指定難病の診断書を作成する医師の指定を行っている。

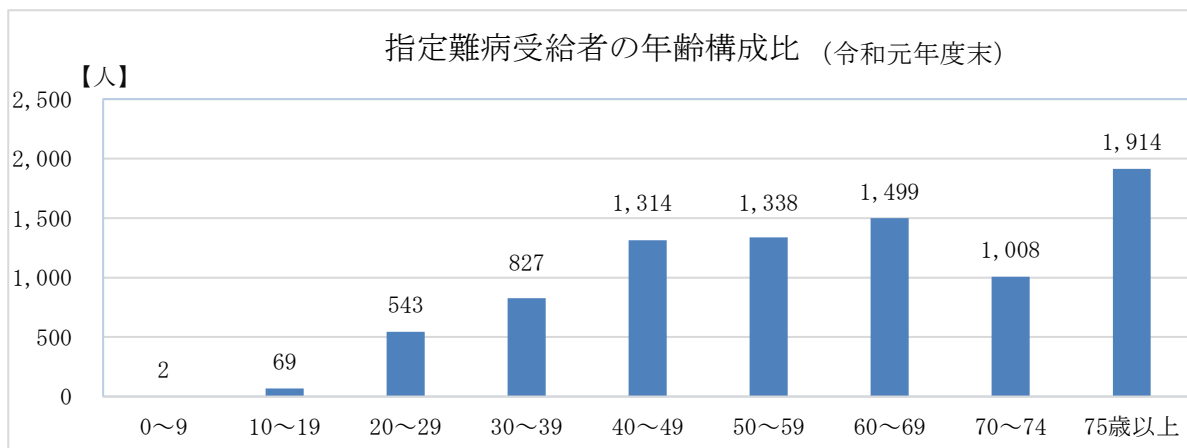
さらに、特定医療費（指定難病）の支給不認定にかかる審査を行うため、仙台市指定難病審査会を設置し、運営している。

(1) 医療費助成

医療費助成状況（令和元年度）

項目	青葉	宮城野	若林	太白	泉	宮城総合	合計	医療費助成額 (千円)
受給者数 (前年度増減数)	1,635 (66)	1,390 (60)	1,121 (62)	1,871 (74)	1,784 (45)	563 (11)	8,364 (318)	1,599,973
新規認定者数	201	196	153	257	203	80	1,090	
更新認定者数	1,503	1,298	1,039	1,746	1,675	539	7,800	

※令和 2 年 3 月 31 日現在（実人数）



※複数疾患の方は複数で計上

(2) 難病法施行規則第 15 条に規定する指定医の指定数（令和 2 年 3 月 31 日現在）

1,451 人

(3) 難病法第 14 条に規定する指定医療機関の指定数（令和 2 年 3 月 31 日現在）

（単位：所）

医療の種類	医療機関	薬局	訪問看護事業者
機関数	946	584	85

2 難病患者等支援事業

難病の患者の療養生活の質の維持向上を図ることを目的に、難病の患者及びその家族等（以下「難病の患者等」という。）に対する相談支援や、難病の患者に対する医療等に係る人材育成、在宅療養患者に対する訪問看護を行うほか、各区及び総合支所（保健所）を中心として、地域の医療機関や関係機関との連携のもとに相談事業を行っている。

(1) 難病相談支援センター事業（委託先：NPO 法人宮城県患者・家族団体連絡協議会）

平成 25 年度に市単独事業として仙台市難病サポートセンターを設置し各種相談支援事業を実施してきたが、難病法に基づく権限移譲により、平成 30 年度より国補助事業として実施している。

名 称	仙台市難病サポートセンター
住 所	仙台市青葉区木町通一丁目 4 番 15 号 仙台市交通局本局庁舎 7 階
電 話	022-796-9131
ファクス	022-211-1781
相談日・時間	月曜日から金曜日 午前 10 時から午後 5 時まで 第 3 土曜日 午前 11 時から午後 4 時まで 第 2 日曜日 午前 11 時から午後 4 時まで

① 相談支援

電話、面接等により適切な助言を行うとともに、必要に応じて医療、保健、福祉及び労働等の適切な関係機関と連携した対応を実施している。

区 分	相 談 者			
	患者	家族	その他	計（延人数）
①電話相談	225	83	237	545
②面接相談	69	26	16	111
③その他	33	3	25	61
計	327	112	278	717

※メール・ファックス、訪問支援、同行支援等は③その他に計上

② 就労支援

公共職業安定所等関係機関と連携を図り、患者の就労に関する相談支援や情報提供を行うとともに、就労継続のための各種支援を実施している。

就労に関する相談件数 延 204 件

II 業務の内容・実績

③ 講演・研修会（難病医療相談会）の開催

難病患者やその家族に対し、医療及び日常生活に関する相談・助言や、本人・家族の精神的ケア、情報交換、社会参加の場を提供することにより、疾病等に対する不安の解消を図ることを目的に実施している。対象疾患の拡大や患者会活動の支援を図るため、難病医療相談会業務を NPO 法人宮城県患者・家族団体連絡協議会に委託している。（各区実施分を除く。）

実施日	疾患名	テーマ	参加人数 (延)
平成31年4月13日	パーキンソン病	パーキンソン病の診断と治療～西多賀病院での最近の取組～	255
令和元年5月12日	関節リウマチ	関節リウマチを確実に寛解させるために必要なこと	65
令和元年5月12日	多発性硬化症・視神経脊髄炎	多発性硬化症と NMO の最新治療 MS/NMOSD の人にフレンドリーな社会	35
令和元年6月16日	網膜色素変性症	網膜色素変性症遺伝子治療アップデートと今後の展望	70
令和元年6月23日	膠原病	膠原病と肺疾患	91
令和元年7月15日	もやもや病	もやもや病 小児の成長と発育	41
令和元年7月20日	遷延性意識障害	風に吹かれて、風をさがして～今を生きること、共に暮らすこと～	44
令和元年7月28日	ポリオ	障害と共に生きる	27
令和元年7月28日	サルコイドーシス	サルコイドーシス～疫学、病態、検査、診断から治療まで～、ぶどう膜炎に併発する白内障	63
令和元年9月8日	筋ジストロフィー	筋肉の脂肪化・線維化を防ぐ方法の開発～筋ジストロフィーにおける筋変性抑制に向けて～	45
令和元年9月30日	難病患者全般	介護保険の利用の仕方～デイサービスってどんなところ？～	33
令和元年10月26日	後縦靭帯骨化症	頸部脊髄症と腰部脊柱管狭窄症について	56
令和元年11月10日	胆道閉鎖症	胆道閉鎖症についての質疑応答	14
令和元年11月23日	線維筋痛症	家でできるリハビリ体操～実演、実技、相談～	14
令和元年12月1日	ファブリー病	女性ファブリー病の臨床的問題は？～診断と治療～	56
令和元年12月19日	難病患者全般	災害時要援護者避難への対応～仙台市災害時要援護者避難支援プランの意義と実際～	40
令和2年1月12日	筋ジストロフィー	台湾の筋ジストロフィー医療と患者会活動の現状	25
令和2年1月23日	難病患者全般	介護保険制度を利用するまで～介護する家族の悩みについて～	41
令和2年1月25日	てんかん	てんかんとどうつきあうか～患者本人・家族・支援者として～	53
計			1,068

④ ピアカウンセリングの実施、ピア・サポーターの養成支援

患者等を対象に参加費無料のピア・サポーター養成研修を開催するとともに、ピア・サポーターを活用した相談支援を実施している。

ア) ピアカウンセリングの実施

実施日数 240 日

イ) ピア・サポーターの養成支援

名 称	ピア・サポーター養成研修	実 施 日	令和元年 12 月 5 日
対 象	難病等の患者または家族	参加人数	6 人
会 場	仙台市難病サポートセンター		
内 容	難病の歴史と制度、相談員としての心得、体験談、交流会		

⑤ ボランティアの育成・活動

患者等の療養生活を支援する地域のボランティアの育成を図ることを目的に、仙台市民を対象に、難病に対する理解を深め患者等への基礎的な支援技術を学ぶボランティア養成講座を開催している。

名 称	難病患者等ボランティア養成講座	実 施 日	令和元年 11 月 28 日
対 象	仙台市にお住まいの方	参加人数	35 人
会 場	仙台市難病サポートセンター		
内 容	難病の歴史と制度、患者の思い、交流会		

(2) 難病患者等ホームヘルパー養成研修事業

(委託先:公益財団法人仙台市健康福祉事業団、NPO 法人宮城県患者・家族団体連絡協議会)

難病の患者等の多様化するニーズに対応した適切なホームヘルプサービスの提供に必要な知識、技能を有するホームヘルパーの養成を図ることを目的に実施している。

【基礎課程Ⅰ】

実施日	令和元年 12 月 11 日	委託先	(公財) 仙台市健康福祉事業団
会 場	仙台市シルバーセンター	修了者数	9 人

【基礎課程Ⅱ】

実施日	令和元年 11 月 6 日	委託先	(特非) 宮城県患者・家族団体連絡協議会
会 場	太白ありのまま舎	修了者数	5 人

II 業務の内容・実績

(3) 在宅人工呼吸器使用患者支援事業

訪問看護が必要な指定難病の患者、在宅で人工呼吸器を使用している患者に対し、訪問看護ステーション等に訪問看護を委託し、必要な費用を交付することにより行う。

※令和元年度実績なし

(4) 訪問相談・指導事業

要支援難病患者やその家族が抱える日常生活上及び療養上の悩みに対する相談や在宅療養に必要な医学的指導等を行うため、専門の医師、保健師、看護師等による、訪問相談・指導を実施している。

訪問相談 実施回数	訪問相談 対象延人員	訪問相談従事延人員				
		医師	看護師	保健師	その他	計
410	410	0	224	341	96	661

※各区・各総合支所および障害者総合支援センター合計

(5) 難病支援連絡会

難病支援に携わる支援者のネットワーク形成と、難病の方を支援していくための課題共有や支援方法の検討を目的に実施している。

名 称	難病支援連絡会	実 施 日	①令和元年6月7日 ②令和元年9月30日 ③令和2年1月10日 ④令和2年3月6日
対 象	難病患者等の相談支援に従事する障害高齢課・保健福祉課職員、発達相談支援センター、仙台市難病サポートセンター職員、仙台市重度障害者コミュニケーション支援センター職員、東北大学病院難病医療連携センター職員等	参加人数	①24人 ②27人 ③26人 ④23人
会 場	障害者総合支援センター 研修室1		
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度難病対策事業について ・難病等医療相談会について ・令和元年度難病支援従事者研修の報告について ・災害時個別支援計画について ・令和元年度台風19号の振り返りから今後の豪雨災害への備えについて ・令和2年度難病対策事業について 		
開催主体	障害者総合支援センター		

(6) 難病支援連絡会企画 研修会

難病支援に携わる職員が在宅における医療機器等の災害対応の知識や技術を学び、災害への備えを支援できる力を身につけることを目的に研修会を開催した。

名 称	在宅人工呼吸器装着者の災害時に備える支援についての研修会	実 施 日	①令和元年8月26日 ②令和元年9月2日 ③令和元年9月30日
対 象	難病患者等の相談支援に従事する障害高齢課・保健福祉課職員、発達相談支援センター、仙台市難病サポートセンター職員等	参加人数	①15人 ②14人 ③24人
会 場	①②東北大学クリニカル・スキルスラボ ③障害者総合支援センター 研修室1、正面玄関		
内 容	①②講義と実技 「人工呼吸器の仕組みの理解と災害時の備え」、「緊急避難と喀痰吸引制度」 「カニューレ挿入、バッグバルブマスク、吸引器の使用方法」 ③講義と実技 「災害時の電源確保と人工呼吸器の接続」		
講 師	①②仙台往診クリニック 遠藤 美紀 氏 ①②仙台北訪問看護ステーション 中島 ふみ 氏 ③仙台往診クリニック 寺嶋 公寿 氏		
開催主体	障害者総合支援センター		

(7) 災害時個別支援計画の推進

人工呼吸器装着児者をはじめとする重い障害がある方が災害時に適切な行動がとれるよう、災害時個別支援計画の作成を推進する。

難病等を理由とした常時人工呼吸器装着児者の災害時個別支援計画作成件数 全市で44件
 (※難病等を理由とした常時人工呼吸器装着児者の把握人数 全市で80名)

II 業務の内容・実績

3 難病患者等補装具等賃借費助成事業

難病患者等及び重度身体障害の方が、必要な時に、適切な福祉用具を利用することができるよう、補装具等を賃借する費用の一部を助成している。(平成 25 年 9 月 1 日より施行)

(単位：件)

種 目		決定件数
張力調整付上肢装具	ポータブルスプリングバランサー	5
歩行補助用具	歩行器・歩行車・杖(一本杖は除く)	1
車椅子	車椅子、電動車椅子	3
段差解消用具	昇降機、スロープ等	0
移動用リフト	移動用リフト・つり具	1
特殊寝台	電動ベッド(付属品を含む)	5
計		15

4 遷延性意識障害者治療研究事業

遷延性意識障害者に対する治療研究費として、治療研究医療機関に対し介護料日額 3,000 円、褥瘡予防費日額 350 円を交付している。

令和元年度支給実人員 29 人